

平成 30 年 3 月 19 日
国立情報学研究所
学術コンテンツ課

平成 29 年度 SPARC Japan 事業報告

第 5 期基本方針のもと、平成 29 年度は次のプロジェクトを実施した。

(1) SPARC Japan セミナー **2. ①②への対応**

- ・ 企画 WG を組織し、3 回実施した。【資料 2-2-1】 【資料 2-2-2】
- ・ 企画終了後、ニューズレターを発行した。第 1 回セミナーの内容は第 33 号（2017 年 12 月）、第 2 回セミナーは第 34 号（2018 年 3 月）に掲載。第 3 回セミナーは第 35 号（2018 年 6 月頃）に掲載予定。

(2) 海外動向調査 **2. ③④への対応**

- ・ RDA (Research Data Alliance) 9th Plenary Meeting 2017 (4 月 5-7 日、バルセロナ) に NII 武田教授、山地准教授、船守准教授、金沢准教授、蔵川准教授を派遣した。
- ・ COAR (Confederation of Open Access Repositories) Annual Meeting 2017 (5 月 8-10 日、ヴェニス) に NII 山地准教授を派遣した。
- ・ IDF Strategic Meeting International DOI Foundation (6 月 13-14 日、デジョン) DOI Outreach Meeting (6 月 15 日、ソウル) に NII 武田教授を派遣した。
- ・ OR2017 (6 月 27-30 日、ブリスベン) にオープンアクセスリポジトリ推進協会作業部会委員の林 豊氏 (九州大学) を派遣し、ポスターセッションで発表を行った。
- ・ RDA (Research Data Alliance) 10th Plenary Meeting (9 月 18-21 日、モントレー) に NII 武田教授を派遣した。
- ・ PIDapalooza (1 月 23-24 日、ジローナ)、IDF Annual Meeting (1 月 25-26 日、バルセロナ) に NII 武田教授を派遣した。

(3) arXiv.org コンソーシアム事務局 **2. ①②への対応**

arXiv.org のコンソーシアム事務局として、arXiv.org の事務局とコンソーシアム間の連絡・意見調整を行う。日本の大学図書館からの 2017 年会費を NII がとりまとめて支払った。また、日本コンソーシアムの代表である引原京都大学図書館機構長が MAB (Member Advisory Board, 10 月 5 日) に出席した。【資料 4-1】

(4) SCOAP³ 支援 **2. ①②への対応**

- ・ SCOAP³ フェーズ 2 (2017-2019 年) に係る日本のとりまとめを行い、日本の大学図書館からの拠出金を、NII がとりまとめて支払った。【資料 4-2】

(5) CLOCKSS 支援 **2. ①②への対応**

- ・ CLOCKSS について、日本の大学図書館からの会費を NII がとりまとめて支払った。

(6) 論文公表実態調査 **2. ④への対応**

平成 28 年度に引き続き、JUSTICE と連携し、日本の論文公表実態調査のフォローアップを行っている。【資料 3】

(7) SPARC Japan 年報の発行 **2. ②④への対応**

- ・ 平成 28 年度の活動状況をまとめ、平成 28 年度 SPARC Japan 年報日本語版を発行した。
- ・ 平成 27 年度 SPARC Japan 年報について、英語版を発行した。

(8) 高エネルギー物理学分野の情報サービスに係る国際連携協定への対応 **2. ③への対応**

NII, KEK (高エネ研), CERN の 3 機関の国際連携協定に基づき、国立情報学研究所実務研修の一環として、以下を実施した。【資料 4-3】

派遣者：横井慶子

所 属：東京大学 附属図書館 情報管理課

研修テーマ：データキュレーションに関する知識と技術の習得

派遣先：CERN (欧州原子核研究機構)

CERN 派遣期間：平成 29 年 10 月 2 日 (月) ～12 月 15 日 (金)

その他：上記のほか、ヨーロッパで開催される関係イベント参加、関係機関見学